
仮面ライダーG After

ハードボイルド探偵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーG After

【Nコード】

N0956X

【作者名】

ハードボイルド探偵

【あらすじ】

改造後、3年目。彼は全ての記憶を取り戻した。しかし、運命は残酷にも戦いの道へと彼を誘う……

雨（前書き）

工事なう

雨

「『蒼いバラ』…」

吾郎はそう呟くと、その華を自分の鼻へと近付けた。

「裏切りの香りか…」

未明から降りだした雨は止む気配が無い。だからといって気温が低い訳ではない、むしろ、身体中にべったりとまとわりつく様な、嫌な気配を運んできている。

吾郎は濡れた顔を拭おうともしないで、蒼いバラを握り潰した。蒼く綺麗だった華は、紅く染まった。

「見付けたぞ！『NO.5』!!」

怒鳴り声が聞こえた。聞き覚えは無かったが、やけに懐かしい気がする。

「これで俺様は昇進し、貴様は抹殺される!!」

GIVE AND TAKE!!! さっさと貴様の命を、俺様に差し出せ!!!」

これで何人目かなど、とうに忘れた。相手に見覚えがあるうがなかるうが、関係ない。

ただ壊す(・・)のみだった。

「お前……『GIVE AND TAKE』だと言ったな……?」

男は怒鳴り声がした方へ顔を向けた。

声の主はいかにもな体つきで、男を睨み付けていた。

「だったら……どうした?」

雨は少しずつ二人の体温を奪い取っていく。

「お前も少しは……死ぬ、覚悟があるということだろう?」

「何言ってる?」

裏切り者には、『死』、あるのみなんだよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0956x/>

仮面ライダー G After

2011年11月13日01時18分発行